

主催：愛知県立大学 多文化共生研究所

# 『虹の戦士』語り Live

語り：坂口 火菜子

音楽：じぶこん



『虹の戦士』：

インディアンに古くから伝えられてきた物語。1991年北山耕平によって翻訳され、もともと「スピリットの帰還」という原題を持つこの物語は、カナダ最大の先住民族クリー族にかつていた「光の瞳（アイズ・オブ・ジ・ファイヤー）」と呼ばれた老婆が残した予言的な物語である。現代を生きる一人の少年が、自分の中に眠る『何か』の存在に気づき、探す旅。地球が病んで動物たちが姿を消し始めるまさにその時、みんなを救うために虹の戦士が現れる。この諺がもとになって生まれた物語といわれている。

参加無料、事前申込不要です。直接会場へお越しください。

日時：平成30年1月26日（金）

12：50～14：20 受付開始 12：15

場所：愛知県立大学長久手キャンパス  
L棟（講堂）



## 平成 29 年度「虹の戦士」開演によせて

愛知県立大学外国語学部ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻  
谷口智子

2017年1月26日3時限、大学講堂で「世界の宗教」（谷口智子が担当する一般教養科目）受講者に、坂口火菜子『虹の戦士』の語りを見せた。舞台を見た感想を自由に書いてもらったところ、およそ115名の学生が、「感動した。民族楽器の演奏（じぶこんによる演奏）を始めてみた。楽器で演奏されるのは、本物の鳥の声や水の流れや木の葉の音のようだった。演技者（坂口火菜子の一人語り）は、少年や両親、おばあさんなど、一人何役もこなして、その演技力の高さに驚いた。ネイティブアメリカンの歴史や現在置かれている状況などが初めて実感としてわかった。ネイティブアメリカンの宗教文化や世界観に興味があった。いろんな宗教があるのだなと思った。」など、好評な意見が多かった。環境問題に対する意識が変わった、本物の語りを見た、大学の講義でこんな本格的な演劇（語り）を見せてもらえたことに感動した、などという意見もあった。

カナダや北米、中南米の先住民宗教や文化を研究する谷口としては、昨年度の授業で「虹の戦士」を初めて学生たちに見せたのを皮切りに、今回も彼らを招聘した。昨年度の学生が観ることができて、今年度の学生ができないのは、機会の不平等である、と思ったからである。感受性のある若い学生たちに、本物の語りを体験させたい。授業で情報を受け取り、思考することだけでなく、ネイティブアメリカンの宗教世界がどんなものか、感じることの豊かさを享受してほしい。語りの坂口火菜子は、カナダ、クリー族の女性の儀礼を行う資格を得ているクランマザーである。10年以上、クリー族のもとに通って彼らと交流している彼女だから見せられる世界がそこにはある。特にこの授業で学生たちが体感できたことは、音と語り、身体表現を用いた語りである。五感を用いて、若い学生たちが先住民文化や世界の宗教に触れる本物の体験をさせることの重要性を、昨年度より感じている。私たちは新しい世代に環境教育や多文化共生について、種まきをする必要が、ますますあるのではないだろうか。



(撮影:谷口智子)